(midori)

ミドリ

WINTER
No.107
2017

公益財団法人
かながわトラストみどり財団

葛葉緑地で地質学にふれる

光るミミズって見たことある？

ヤマユリ・チャレンジ、久田緑地で製材体験

かながわの未来に、今できること

公益財団法人
かながわトラストみどり財団

1985年に発足以来、神奈川のみどりの保全と創造に関する様々な活動を展開しています。1万人を超える会員の支援や募金寄附、ボランティアの皆様の協力を受け、今ある自然環境を次の世代に引き継いでいけるよう取り組んでいます。

045-412-2525
midori@ktm.or.jp
@kanagawa_midori
facebook.com/ktm.or.jp

CONTENTS
もくじ

自然へ一歩
冬から春へ 池のにぎわい
絵 阿木 二郎　文 手塚 真理 P.3

葛葉緑地で地質学にふれる
生命の星・地球博物館 学芸員
笠間 友博 P.4

光るミミズって見たことある？
～葛葉緑地はいろいろな生き物に出会えるよ～
自然観察施設・くずはの家 所長
高橋 孝洋 P.8

葛葉緑地 アクセスMAP P.11

緑の募金 平成29年度
緑化運動・育樹運動コンクール
受賞作品 P.12

緑の募金
緑の募金による活動報告 P.13

一里塚・四方山話 3
「ムササビ」
神奈川県森林インストラクター 滝澤 洋子 P.14

事務局だより
●小網代の森
アカテガニ放仔観察会2017 P.14
●感謝状贈呈、主催イベント ほか P.15

ヤマユリ自生地
再生チャレンジ始動 P.16

久田緑地での取組事業
製材体験イベント P.17

財団事業にご協力ください
寄附で久田緑地素産材の木工品プレゼント P.19

会員の皆さまへ

※転居先不明で返送されるケースが増えています。住所などの変更がありましたらご連絡ください。

※機関誌「ミドリ」は財団公式WEBサイト(http://ktm.or.jp)で読むことができます。個別の発送停止をご希望の方は財団事務局までご連絡ください。

表紙の写真

ヤマユリ／財団事務局へ会員の方から一通のお手紙をいただきました。それをきっかけに“ヤマユリ”に関する新たな取り組みを開始することになりました(詳細は16ページ)。

会員数＆寄附募金のお知らせ

トラスト会員を募集しています。
会員の皆さまからご紹介ください!

現在の会員数
(2017年9月末現在)

	普通会員	緑地保全支援会員
個人会員	3,973人	420人
家族会員	6,882人	663人
法人・団体会員	257人	23人
特別・名誉会員	320人	
計	11,432人	1,106人

遺贈による寄附について
近年、遺言による寄附について関心が高まり、これまでに遺志を受けた遺贈による公益事業を開始しております。遺言の財産受取人として、公益財団法人かながわトラストみどり財団をご指定いただけます。

相続税の非課税

相続された方が相続財産を、相続税の申告期限(亡くなってから10ヶ月)までに寄附された場合は、その寄附額は相続税が非課税となります。

「かながわトラストみどり基金」について
県内の優れた自然環境や歴史的環境を保全し、緑豊かな神奈川を次の世代に引き継いでいくために必要な資金を積み立てることを目的に、昭和61年に神奈川県に設置された基金です。この基金は緑地の買入れや財団の行う事業への支援など、「かながわのナショナル・トラスト運動」を推進する原動力となっています。

トラスト基金について
基金実績　寄附累計額(2017年9月末現在)　13億8,607万8,861円

寄附者名(2017年7月～9月)(敬称略)

川崎給与事務所なわて会、㈱タズミ

トラスト募金による協力 (2017年7月～9月)(敬称略)

箱根観光船株式会社

「かながわトラストみどり財団」への寄附
財団へ寄附をいただきましたのでご紹介します。誠にありがとうございました。

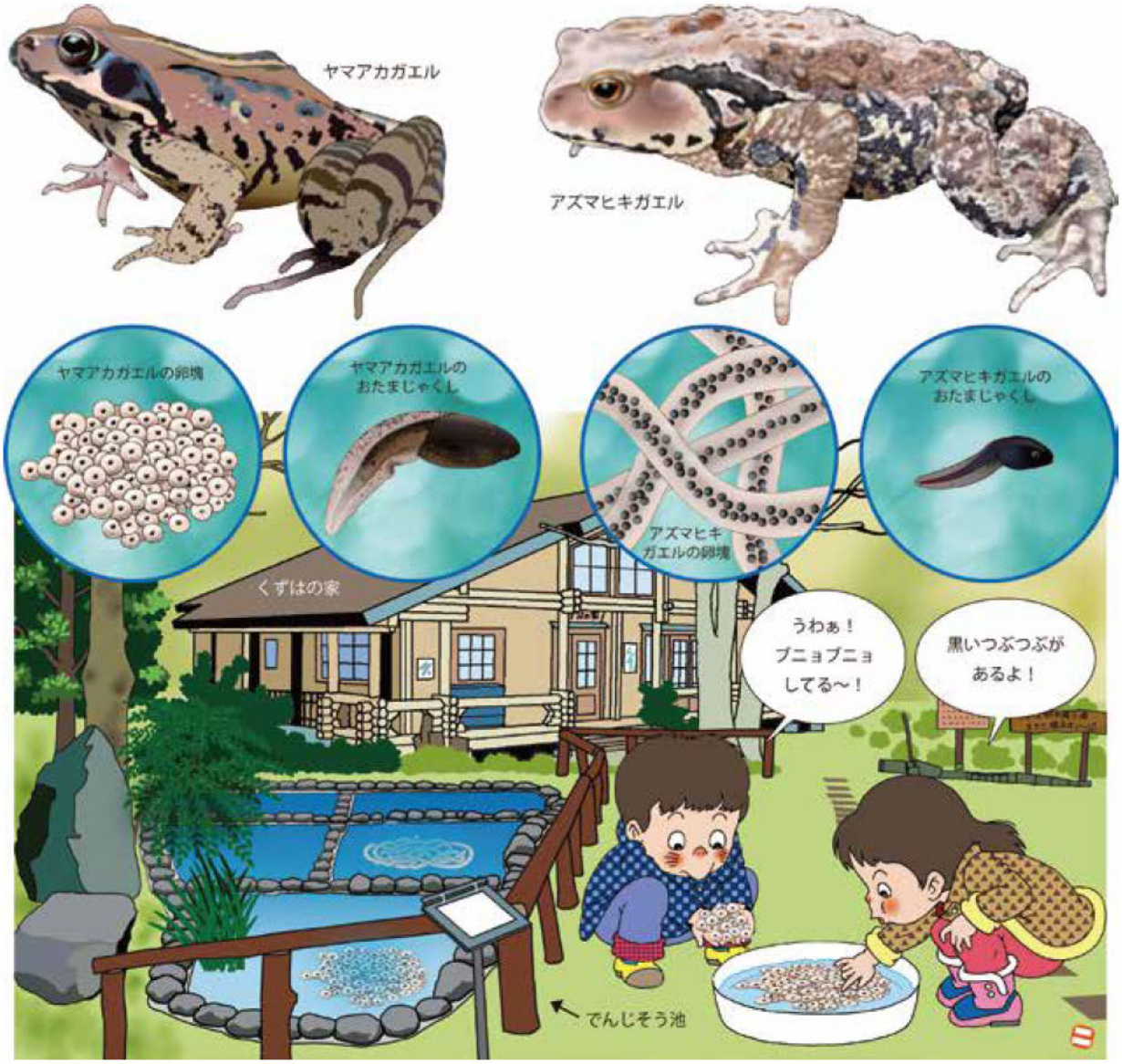
寄附者名(2017年7月～9月)(敬称略)

浅野 由美子、安藤 誠治、池谷 善博、池田 純子、泉上 和子、市川 俊子、井上 哲也、㈲エムテックグリーン、大浦 輝幸、大島 照治、加藤 高祥、金森 悟、久保 幸子、小泉 一郎、児玉 英二、齊藤吉之・和子、酒田 浩幸、澤 雅俊、重田 昌利、清水 健二、新谷 眞弘、菅野 実、髙橋 敏雄、辻 一男、泊瀬川 亨、長谷川 喜美江、濱 武之、樋口 真弘、廣瀬 節子、松尾 隆光、三浦 正子、㈱ヤマシゲ、山村 宣夫、山本 勝久、横浜たちばなライオンズクラブ、和田 悟史、渡部 明(匿名希望17名)

※掲載の承諾をいただいた皆さまをご紹介させていただいております。

※会費のお支払についてクレジット決済ができます。日本財団(CANPAN)によるクレジット決済サービスを利用したもので事前に情報登録が必要ですが、財団への２重登録はいりません。なお、毎年の継続による支払いとなりますので、6年会員制度(5年分一括会費)は適用できません。CANPANサイト／かながわトラストみどり財団ページhttps://kessai.canpan.info/org/ktm/

冬から春へ 池のにぎわい



絵：阿木 二郎（あぎ じろう） イラストレーター、漫画家。
くずはの家の行事ポスターを多数手掛ける。
文：手塚 真理（てづか まり） くずはの広場指導員

「おじゃまたくしー！」…アニメのワンシーンのような光景がみられる季節がやってきました。テレビや本で知ってはいても、初めて見て触れるおたまじゃくしに、子どもたちは大はしゃぎ。くずはの家の前には、保育園の子ども達が必ず立ち寄る小さな池があります。氷が張るような寒い季節に暖かい雨の降る夜は、ヤマアカガエルの産卵日。1月から3月にかけて、70以上の卵塊が産み落とされます。一つの塊に1,000個くらいの卵がありますから…相当な数です。3月中旬になると今度はアズマヒキガエルの番です。約束したかのごとく、ある雨の夜にたくさんのカエルが集まってきて、蛙合戦を繰り広げます。翌日には透明な紐状の卵塊が池の底ににょーろにょろ。そんなこんなで池を埋め尽くしたおたまじゃくし達は、5～6月には小さな子ガエルとなって水辺を離れ森に生活の場を移します。森と水辺が繋がった葛葉緑地の環境が、これら多くの生き物の命を育んでいるのです。

葛葉緑地で地質学にふれる

生命の星・地球博物館 学芸員　笠間 友博

写真1 雪景色の葛葉緑地

1. 葛葉緑地の地形－段丘崖の緑－

葛葉緑地は、葛葉川が刻む渓谷斜面沿いの緑地です(写真1)。この斜面は段丘崖と呼ばれる侵食地形で、周囲の住宅地が広がる平らな台地は扇状地性の河岸段丘です(図1)。台地の上は開発が進んでいますが、段丘崖は土地利用がしづらいため、開発から逃れている所が多く、貴重な自然環境を私たちに伝えています。葛葉緑地もそのような段丘崖に残された貴重な自然環境のひとつです。

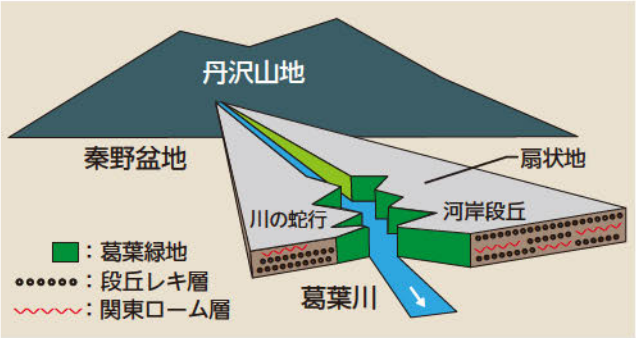


図1 葛葉緑地の地形地質概念図

2. 葛葉川の流路と地殻変動

葛葉川は丹沢山地から流れ出し、葛葉緑地のある秦野盆地を南東方向に流れ、水無川などと合流し、金目川となります。

秦野盆地の南側には大磯丘陵という高まりがありますが、金目川は大磯丘陵を東へ迂回するように流れ、鈴川、渋田川などと合流して花水川となり、相模湾に注ぎます。大磯丘陵は世界的に見ても隆起速度の速い場所として知られ、今は丘陵ですが、海に覆われていた痕跡や箱根火山や丹沢山地から川が流れ込んでいた痕跡が地層に残されています。その中で興味深いのは、昔の金目川の痕跡が地形として残っている点です。秦野と二宮を結ぶ重要な交通路は大磯丘陵を横切る南北方向の直線的な谷の中にありますが、この谷は数万年前の金目川が侵食してつくった地形と考えられています。大磯丘陵が隆起したため、金目川は迂回して流れるようになったのです(図2)。

なお、葛葉緑地の葛葉川は蛇行して流れています。

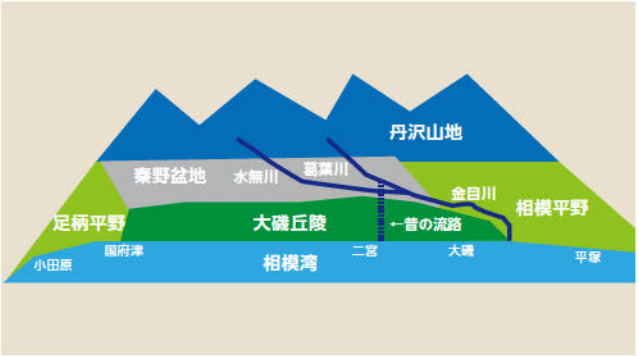


図2 金目川の流路概念図

段丘崖は蛇行と並行していることから、蛇行した状態が初めにあり、蛇行に沿って下方に侵食が進み、渓谷となったことが分かります。蛇行の原因は新九沢橋付近にある断層による隆起運動によって下流部が隆起し、河川勾配が緩やかになったためと考えられています。

3. 現地案内

(1) くずはの家

葛葉緑地の大きな特徴は、秦野市が設置した「くずはの家」という自然観察施設があることです。ここには親切な専門スタッフが常駐し、訪れる人の対応や様々なイベントを行っているほか、多くのボランティアが参加して、その活動を支えています。観察は「くずはの家」で状況を聞いてから始めるのが良いでしょう。大雨の時は川が増水して、注意を要する場合もありますし、鹿除けのネットを張っている箇所もあります。ヒルが出る季節には、ヒル除けの食塩水が準備されています。

▲くずはの家

(2) 露 頭

地層の観察は「露頭」と言われる植生(以下、本誌に因んで"緑"と呼ぶことにします)の無い場所で行います。このような場所は、最近何らかの原因で崩れた所です(写真2)。崩れても時間経過とともに、緑に覆われて行きますので、露頭は言わば"生きもの"のような存在です。図3は2017年9月現在の露頭の状況です。見えにくくなっているかもしれませんし、新たな露頭が誕生しているかもしれませんので、最新情報は「くずはの家」にお尋ねください。緑地に行って緑の無い所を探すのは、変な気がしますが、地層に興味の無い人は崩れた場所がどのように植物に覆われていくのかを、時間をかけて観察するのも良いでしょう。

写真2 図3の①露頭左側の崩落
崩落で上部が良く見えるようになった(2012年1月撮影)

図3 葛葉緑地の露頭
①と②の上部に軽石層を含む関東ローム層が見られる。
他は主にレキ層の露頭

写真3 段丘レキ層の露頭
③付近、中央部にはレキのないローム質の部分がある。

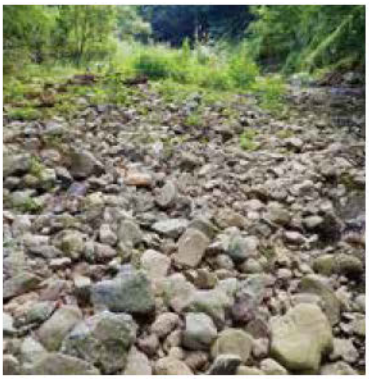


写真4 葛葉川の河原のレキ
③付近

写真5 葛葉緑地の
関東ローム層の拡大写真
さまざまな色の粒が
混ざっている。

(3) 段丘レキ層

露頭は河岸段丘の断面なので、川のレキ層(段丘レキ層)が見られます(写真3)。レキは侵食によって崩れると、今の河原のレキと混ざってしまいます。河原のレキは上流の山からもたらされるものですが、このように途中で混入するレキもあります。

レキ層は1層ではなく、関東ローム層(赤土)を挟んで何層かありますが、レキ層と関東ローム層は共に陸上で堆積した地層です。違いは川が流れていたか、いなかったかです。関東ローム層は洪水でも水に浸からない場所で堆積しますので、当地は川の流路になったり、ならなかったりを繰り返してきた事がわかります。レキの種類や大きさ、形は今の葛葉川のレキに似ているので(写真4)、レキ層を作った川は現在の葛葉川と同じ表丹沢に源をもつ川と推定されます。葛葉川には角の十分取れた円礫はあまりありません。これは山に近いためで、昔も丹沢山地との距離はあまり変わっていないことが推定されます。

(4)関東ローム層

関東ローム層は、火山灰に黄砂などの風塵が加わったものを母材として、風化作用や生物の作用がはたらいてできた土(土壌)が長い年月かけて堆積してできた地層です。堆積速度は火山活動の影響もありますが1万年で1m程度です。土は雨が降ると流され、乾燥して風が吹くと飛ばされてしまいます。土が積もるためには、地表が緑に覆われる必要があります。つまり関東ローム層は、緑の中でできた地層なのです。関東ローム層が今後も堆積していくには、緑の保全が必要になります。

現実生活との関わりは見えにくいのですが、緑が失われると土砂が流出するという話は聞いたことがあると思います。緑が保たれると、その土地は1万年で1m程度の速度で高くなっていきます。広い意味で国土が増えるわけです。緑の中で堆積した関東ローム層でも、木の化石が見つからないのはなぜでしょうか。答えは堆積速度にあります。直径1cmの小枝が埋もれるのにも計算上100年程の歳月が必要で、その間に木は朽ち果ててしまうからです。

写真6 吉沢ローム層の露頭　軽石層が何枚も見える

写真7 図3の①露頭左側の崩落
崩落で上部が良く見えるようになった
（2012年1月撮影）

（5）軽石層

関東ローム層には様々な色の粒が見えます（写真5）。これらは軽石やスコリアなどの火山噴出物です。大きな噴火では軽石やスコリアは明瞭な層を成して堆積します（写真6）。秦野付近の関東ローム層にはこのような層が約45万年間に200枚以上あります。これらは主に箱根火山と富士火山の大噴火の痕跡ですが、富士火山の活動は約10万年前から始まったので、ほとんどは箱根起源です。

これらは記号を付けて整理されています。図3の①ではKlp-13～15, Kmp-1～12, Pm-1の軽石層が見られます（写真6、写真7）。Kは平塚市吉沢（きさわ）の頭文字、lは下部、mは中部、pは軽石の英語頭文字です。つまり吉沢ローム層下部の第13番軽石層～15番軽石層、吉沢ローム層中部の第1番軽石層～12番軽石層という意味で、ここでは下部（古い方）から1、2、と数えています。これらは箱根火山の前期中央火口丘（浅間山、鷹巣山、屏風山など）の噴出物で、約11万年前のものです。Pm-1は木曽御岳火山の第一軽石層で約10万年前のものです。これらの年代からレキ層の年代も推定できます。軽石層にはボランティアさんがプレートを付けていますので、初めての方でもどれが何だかすぐわかります。一見、どれも同じ軽石層に見えますが、よく見る軽石の粒の大きさや色などの違いが見えてくると思います。これらの軽石層は、かつては各地で見られたものですが、開発が進んで露頭がどんどん失われ、今ではとても貴重なものとなっています。葛葉緑地がかながわのナショナル・トラストに認定されたおかげです。なお、関東ローム層の軽石層については、生命の星・地球博物館ホームページの電子百科・神奈川の自然・関東ローム層（http://nh.kanagawa-museum.jp/sizen/tephra/top_menu.cgi）をご覧ください。

プロフィール

笠間 友博
Kasama Tomohiro

神奈川県立生命の星・地球博物館 主任研究員。
専門は火山地質学。神奈川県内の関東ローム層中の火山灰層をターゲットに、造成地等を中心に試料収集、調査研究を行っている。

光るミミズって見たことある?

～葛葉(くずは)緑地はいろいろな生き物に出会えるよ～

自然観察施設・くずはの家 所長　高橋 孝洋

ジオラマ　秦野断層付近から上流の葛葉峡谷を望む
(えのきの会岩石文科会 制作)

葛葉緑地の環境

秦野市の中心から直線距離にしておよそ900m、住宅地の真ん中に葛葉緑地はあります。普通、緑地というとこんもりと木々の生い茂った丘を連想しますが、ここ葛葉緑地はちょっと様子が違います。

丹沢山塊の三ノ塔を源頭とし、秦野盆地の北側を南東方向に流れ、秦野市落合付近で金目川に合流する葛葉川は、葛葉緑地の辺りで台地を深く削り、最も深いところで約30mの切り立った崖を形成する葛葉峡谷を形作っています。この崖には河畔林が発達しましたが、あまりにも急峻な崖地だったため開発から免れ、緑地として残ることになりました。ですから、葛葉緑地を台地の上にある住宅地から見ると、ここに緑地があるようには見えず、逆に谷に降りてみると、こんどは台地の上に建っている家が見えないので、深い山奥に迷い込んだ気がします。

また、丹沢山塊に降った雨は深い谷の崖から地下水となって浸みだし、葛葉川に清流を生み出しています。今年は梅雨の時期に雨量が少なかったためか、緑地の上流部では水が涸れ川底がむき出しになっていますが、峡谷の出口ではかなりの水量が流れています。この全てが緑地内からの湧水なのです。

葛葉緑地の特徴は、このように緑地の中心に葛葉川が流れていることです。葛葉川にはアブラハヤやヨシノボリなどの魚や、カゲロウ、トンボなどの水生昆虫が、また流れ込む湧水にはゲンジボタルも生息し、多様な生物相を見ることができます。

緑地全体を見渡すと、川に近い場所では川からの湿り気が届き湿潤な環境となるため、トリノフンダマシ類など湿潤な環境を好む生き物が見られます。また、川から台地の上に登る尾根筋では乾燥した環境になります。このように葛葉緑地は狭いながらも、環境に多様性があるため、動物・植物ともに多種多様な生き物が生息する場所となっています。

▲葛葉緑地 航空写真

葛葉緑地の珍しい生き物

葛葉緑地には、ほとんどの皆さんが見たことがないと思われる生き物も生息しています。皆さんは光る生き物と聞いて何を思い浮かべますか? 直ぐに思い浮かぶのがホタルですね。葛葉緑地からはホタル類が5種類(そのうちゲンジボタルとヘイケボタルは移入)確認されていますが、ここでご紹介するのはホタルではありません。

▲ ホタルミミズ

ホタルミミズ

まずは、その名も「ホタルミミズ」という発光するミミズです。日本には光るミミズが2種類います。1種はこの「ホタルミミズ」。もう1種は砂浜の汀線に打ち上げられたゴミの下などに棲むイソミミズです。こちらは海辺のミミズなので、残念ながら葛葉緑地にはいません。

ホタルミミズの大きさは、伸びて長さ3cm太さ1mmくらいで、淡いピンク色をしている、ちょっと透き通った感じの小さなミミズです。

ホタルミミズは1934年(昭和9年)に神奈川県大磯町で発見されて以来、日本各地で発見されてはいましたが、最初の発見から70年ほどの間に全国で20件程度の発見例しかなく、発見すればすぐに新聞記事になるほどのとても珍しいミミズとされていました。しかし7～8年前から発見例が相次ぎ、2011年(平成23年)に名古屋大学の大場裕一博士らが名古屋大学のキャンパス内でたくさんのホタルミミズを発見したことで、実はどこにでもいる普通種であることが分かってきました。

私も12年ほど前の3月、蛍の幼虫の上陸を観察に行った際、平塚の公園で一度見つけたことがあり、またいつか見つけてみたいと思っていました。

2015年(平成27年)11月30日、くずはの家の駐車場の隅を何気なく掘ってみたところ、小さなミミズが出てきました。日中は周囲が明るく、ホタルミミズかどうかの確認はできないので、くずはの家の小屋裏に上がり戸を閉めて真っ暗な中、ミミズに刺激を与えてみました。すると尾端から発光粘液を出し、淡い緑色の発光がはっきりと判りました。まさに灯台下暗しで、身近なところに生息していました。くずはの広場の地表には駐車場周辺だけではなく、観察路にも、このミミズのものと思われる糞塊が無数にあり、おそらくは数万匹は生息しているのではないかと推測されます。

ホタルミミズは発見例が少なかったこともあり、その生態はよく分かっていません。ただ、ほとんどの発見が冬であり、特に11月から3月頃までによく見つかっています。おそらく夏は卵の状態で過ごしていて、見つからないのではないでしょうか。

とにかく、ホタルミミズを見るのならこれからがベストシーズン。特に今頃は日暮れが早いので、野外で発光を見るチャンスでもあります。

▲ 紅葉の葛葉緑地

▲ チリメンタケとヒラタキノコバエの一種

▲▶ ヒラタキノコバエの一種の様子

ヒラタキノコバエの一種

くずはの家では、例年秋に行っているきのこの観察会を、今年は6月25日(日)に「きのこウォッチング～初夏の身近なきのこ入門」として行いました。

観察会が終わり、採取したきのこを林に戻そうとしていた時、チリメンタケというきのこの表面に何かの幼虫がいるのを見つけました。きのこの表面に張った粘液の膜の下に、長さ2cmほどで体節に黒い点がある細長い幼虫がいました。

私は以前、発光生物の宝庫である八丈島に、発光キノコやニッポンヒラタキノコバエという発光性のキノコバエを見に行ったことがあり、その際見たキノコバエの幼虫と今回見つけた幼虫がとてもよく似ていたため、直ぐにこの仲間の幼虫ではないかと思いました。

このヒラタキノコバエの仲間は日本国内に何種類かいて、その全てが光るわけではないとのことでしたので、キノコバエの付いたチリメンタケごと家に持ち帰り、夜、暗室のようになった室内で、発光の確認をしました。

高感度に設定したカメラで20分間露出したところ、幼虫の発光を写すことができました。さらに真っ暗な空間に慣れた眼は、この幼虫の出す幽かな光を捕らえることができ、肉眼でも発光を確認することができました。

神奈川県内でヒラタキノコバエの仲間の発光性幼虫についての報告があるか、神奈川県昆虫誌(2004年,神奈川昆虫談話会)をはじめ、生命の星・地球博物館、発光生物の研究者への問い合わせ等で探しましたが、記録は無く、どうやら神奈川県内ではこれが初確認となるようです。

ただ、いろいろな方に伺う中で、キノコバエの仲間を分類している研究者は現在日本に一人もいないらしく、これ以上は調べられないことが分かりました。

とにかく、ヒラタキノコバエの仲間の発光する幼虫が葛葉緑地にいて、神奈川県では現在ここだけで確認されているということは確かなようです。

元々は、秋に見られないきのこを探してみようということから始めた観察会が、瓢箪から駒、とんでもないものの発見に繋がりました。

おわりに

今でこそ、葛葉川のもたらした多様な環境は、葛葉緑地においてさまざまな生き物を育んでいますが、1960年(昭和35年)頃の航空写真を見ると、葛葉緑地付近は薪炭林として利用されていたようで、急斜面にもかかわらず、皆伐された様子が見て取れます。葛葉緑地にムササビやニホンリスなど樹上性のリスの仲間が見られないのはそのせいだと思われます。

地上を歩く生き物や羽のある生き物は、その後移り住んできてここに定着しました。周囲が開発されていく中で、決して広くはない葛葉緑地ですが、それらの生き物たちのシェルターになっているようです。皆様のお力による緑地の保存で、生き物たちのすみかが未来永劫に維持されていくことを願っています。

プロフィール

高橋　孝洋
Takahashi　Takahiro

元神奈川県立高等学校生物教諭
1980年より秦野市内のホタル類の生息調査および保護活動を行う。
2006年から自然観察施設「秦野市くずはの家」所長に就任。
発光する生物に興味を持ち、葛葉緑地内から2015年ホタルミミズを発見、2017年発光性ツノキノコバエの幼虫を発見した。

かながわの
ナショナル・トラスト第1号
秦野市

葛葉（くずは）緑地アクセスMAP

〒257-0031 秦野市曽屋1137番地　☎0463-84-7874（秦野市くずはの家）

▲くずはの吊り橋

アクセス

電車・バスの場合

●小田急線秦野駅北口よりバスで約7分
神奈中バス2番乗り場から出るどのバスでも、停留所「宮上」を通ります。
- 菩提経由「横野入口」行き
- 大倉入口経由「渋沢駅北口」行き
- 榎木堂経由「高砂車庫」行き

バス停「宮上」下車徒歩約3分（少し戻る）

車の場合　　無料駐車場あり（25台）

●東名高速　秦野中井インターより
インター出口を左折
「河原町」交差点を左折、2kmほど直進し
246号線の高架をくぐり、「宮上」の信号より
50mほど先の（赤いレンガの二階建ての家が目印）
右手の路地へ右折（看板あり）

●国道246号線　厚木方面より
善波峠のトンネルを抜け秦野市内に入り、
3kmほど進み、曽屋インターチェンジオフランプを
斜めに左折
県道705号線「曽屋神社西」交差点T字路を右折
246号線の高架をくぐり、「宮上」の信号より
50mほど先の（赤いレンガの二階建ての家が目印）
右手の路地へ右折（看板あり）

●国道246号線　小田原方面より
「曽屋」の信号を左折、すぐに「宮上」の信号を左折
50mほど先の（赤いレンガの二階建ての家が目印）
右手の路地へ右折（看板あり）

平成29年度 緑化運動・育樹運動コンクール

「緑化運動・育樹運動コンクール」は、緑の募金運動によって行われています。

ポスター原画コンクール 最優秀賞

【小学校の部】
「木をたくさん植えよう」
横浜市立
小机小学校4年　髙原 明希さん

【講評】えっ“せんじゅかんのん”!? 思わず笑みがこぼれてしまうユーモラスな作品ですが、木を植える大変さも伝わってきます。滴る汗も効果的です。それぞれの手が握っている木をよく見ると針葉樹と広葉樹を描き分けられています。多種類の木を植えようという思いが表現されています。

【中学校の部】
「緑がふえれば」
小田原市立
千代中学校2年　野村 芽生さん

【講評】暗い茶色の星でロボットが植物の苗を植えているSF的な作品です。緑の苗からは光が発散されているように、緑が生命の根源であることがわかります。中に浮かぶ水色の星は地球でしょうか。月に緑が増えれば…。緑の審査会場の中で目立つ絵でもありました。

【高等学校の部】
「やどり木」
神奈川県立小田原城北
工業高等学校3年　武井 ゆきのさん

【講評】“ヤドリキ”は木の枝に寄生して生きる植物ですが、この絵の“やどり木”は生命がとどまる場所という意味でしょうか。生命が宿る大樹を表現している作品です。力強くリアルに描かれた幹、多様な緑で描かれた葉、シルエットで普遍化した生き物たちも効果的です。

標語コンクール 最優秀賞

守ろうよ　100年後も　この緑

【小学校の部】湯河原町立吉浜小学校5年　和田 遥さん

【講評】100年後という言葉に、次世代につないでいこうという「息の長い取り組み」でちょっとやそっとじゃ緑化はできないんだというメッセージが込められています。守ることも、ふやすことも、地道な取り組みであるということが伝わってきました。

人と森　共に育てる　緑化の輪

【中学校の部】川崎市立犬蔵中学校3年　政岡 稜太郎さん

【講評】標語として、非常に親しみやすい文章でした。内容も、「緑化することで、人も森も育つ」というところが印象的です。ただ緑化をすれば良いというということではなく、緑化することで、人の心を育てていくんだというメッセージを感じました。

今植える　緑で繋ぐ　次世代へ

【一般の部】横浜市　濱田 咲子さん

【講評】かつての流行語に、「今でしょ!」というのがありました。この標語の「今」というのがとても効いていて、見た人を引きつけるものがあります。「今やらなくては」という切実感や切迫感がうかがえます。一般の部の作品らしく、今だけでなく、今やっていることを次世代の人へもつないでいかなくてはということなのでしょう。あとではなく、「今でしょ!」。

緑の募金による活動　かながわジュニア・フォレスター教室

小学生から高校生までを対象とした森に親しむ体験学習を毎年行っています。今年は森林の探検やキャンプ、林業体験などさまざまな活動を行いました。

2017 第1回 6月24日(土)

第1回目は6月に県立四季の森公園で自然観察会を開催

2017 第2回 7月29日(土)～30日(日)

第２回目は足柄森林公園 丸太の森でキャンプ。林業体験でササ刈りに挑戦

キャンプといえばキャンプファイヤー

2017 第3回 10月21日(土)

第３回目は県立秦野戸川公園。木工クラフトとして竹笛作りに挑戦

ダイドードリンコ株式会社より飲み物の提供

緑の募金による活動　箱根小塚山でハコネダケ刈り作業

2017 9月13日(水)

ポーラ美術館に隣接するトラスト緑地の箱根小塚山緑地で今年もハコネダケの除去作業を行いました。2012年から継続しており、緑地一面に繁茂するハコネダケを手鋸で刈っています。毎年の活動の成果により下層植生の回復が見られてきました。

緑の募金による活動　緑の少年団ロシアに行く～緑の少年団国際交流事業～

2017 7月31日(日)～8月6日(日)

7月31日(日)～8月6日(日)に日本とロシア両国の友好親善の輪を広げ、国際的な視野に立った人材を育成する国際交流事業が開催されました。神奈川県から「かまくら緑の探偵団」の団員が2名参加しました。

団員の感想

ロシアの森林管理局の人と記念植樹を行いました。またいつか、ハバロフスクに行って、植えた木がどれくらい大きくなっているか見に行きたいなぁと思っています。

一里塚・四方山話 3

ムササビ

各地の森林や緑地で活躍する森林インストラクターから自然環境にまつわる、さまざまな話を聞く連載企画。一里歩いて一里塚で休息をするような、そんな肩肘張らないお話です。

神奈川県森林インストラクター　滝澤 洋子

私が神奈川県森林インストラクターとなった初期の頃、やどりき水源林で自然観察の研修会がありました。そこで講師から「ここにはいろいろな動物が棲んでいますね」と一言。

え！えっ！どこにいるの？当時の私にはまったくその痕跡すら見えませんでした。これまで山で見た動物と言えば、登山途中で会ったカモシカやモモンガやオコジョ。森林にはいろいろな動物が棲んでいる事を頭ではわかっていても、その実感はありませんでした。

その後、やどりき水源林で「県民参加のモニタリング」が行われ、私はこの動物班に参加の機会を得て動物調査の手法の一部を指導者に教えていただきました。終了後も調査を続け、動物に遭遇することが時も増えてきました。なかでも一番会えるのがムササビです。

ムササビは夜行性ですが、昼間樹洞や巣箱の入口一杯に顔を出していることがあります。ドングリ眼に肌色の丸い鼻、頭から頬の帯状の白い毛が目立ちます。

ある年の12月初旬、ムササビが樹洞から出るところを観察しようと寒さに震えながら見守ると、日没30分後に約束したように樹洞から出て来ました。するっと出て来ると、息をつく間もなく木の上にするすると登り、どこかに滑空していきました。ほんの一瞬の出来事でした。翌年は別の樹洞で待っていると、飛膜を広げて頭上を滑空していきました。まさに「空飛ぶ座布団」です。尾でバランスをとって立木を上手にかわしながら滑空する様は感動ものです。残念ながら未だに樹洞を出た後のムササビを追跡できずにいます。それでもスギの球果や広葉樹の葉の食痕がたくさん落ちているのを発見すると、ムササビが木の上で無心に食べている様子を思い描き、嬉しくなってしまいます。

やどりき水源林には同じく森林を滑空する「ホンドモモンガ」もいます。顔の割に大きなまん丸の眼がとてもかわいいです。やどりき水源林においでになったら、樹洞を探してみてください。もしかしたら樹洞の中から顔を出している彼らに会えるかもしれません。

小網代の森　アカテガニ放仔観察会 2017

2017 7月22日(土)・23日(日)、8月22日(火)

今年もアカテガニ放仔観察会を開催しました。本事業は神奈川県職員やNPO法人小網代野外活動調整会議スタッフの連携によって実施され、毎年恒例のイベントとなっています。

太陽が西に傾き始めた頃、講師からアカテガニの生態や観察方法について話を聞き、長靴に履き替えて参加者は海に入ります。日没から30分程でアカテガニは子をお腹に抱え海に放つ(放仔)ため岸を訪れます。それを邪魔しないようそっと海から観察するのです。

今年は3回の実施で216名の参加者が観察できました。引き続き、生きものの不思議と小網代の森の魅力を知る企画を作り、小網代の森の保全に努めていきます。

お便り紹介

アカテガニ放仔観察会について
お寄せいただいた中から一部を紹介します。

いつもだとカニは見れないから、すごいおもいでになったです。アカテガニはあかちゃんをうむとき「ぶるぶる」ふるえるところが楽しかったです。(Erekaさんより)

夕方、参加者の私たちが海に入り、アカテガニが這い出してきて、波打ち際で放仔する様子を観察。自然界の営みの素晴らしさに大変感動しました。(池田さまより)

横浜たちばなライオンズクラブからの寄附金に感謝状贈呈　2017 8月29日(火)

8月18日(金)に横浜たちばなライオンズクラブより小網代の森緑地の保全のためにと多額の寄附をいただき、8月29日(火)ホテル横浜キャメロットジャパンでの例会にて財団西ケ谷専務理事より木製の感謝状を贈呈しました。

贈呈後には、お礼と挨拶の言葉、小網代の森の魅力や保全方法について紹介させていただきました。

▲横浜たちばなライオンズクラブ板津会長(左)と財団西ケ谷専務(右)

会員掲示板

優待施設からのお知らせ

ポーラ美術館

ポーラ美術館開館15周年記念展

「100点の名画でめぐる100年の旅」

【会期】2018年3月11日(日)まで開催予定

会期中無休

ポーラ美術館
箱根町仙石原小塚山1285 ☎0460-84-2111

アンリ・マティス《リュート》
ポーラ美術館収蔵

2017年、ポーラ美術館は開館15周年を記念し、特別なコレクション展を開催いたします。当館のコレクションには、19世紀から20世紀までの重要な画家の作品が、体系立って集められているという特徴があります。今回の展覧会では、数ある当館収蔵絵画のなかから、西洋絵画71点、日本の洋画29点を厳選いたしました。この100点をご覧いただくことで、西洋と日本の近代絵画の流れを追うことができます。

特別招待券をプレゼント!

5組10名様にプレゼントします。応募は『107号ポーラ美術館招待券』/「ミドリ」の感想/〒/住所/連絡先/氏名を明記し、Eメール、FAX、ハガキにて。発表は発送をもって代えさせていただきます。

(締切1/31)

2017年度 (2018.2〜2018.3) かながわトラストみどり財団 主催イベント

トラスト会員募集中! 詳しくは裏表紙をご覧ください

バス乗車 ※コース内のバス代は各自負担となります　※写真はイメージです

小網代の森　各回20人(先着順)　※受付は各開催前月1日から開始

小網代の森第2土曜日 トラスト・ガイド

2018年
2月10日(土) 受付:1/1〜
3月10日(土) 受付:2/1〜
10時〜12時30分

会員	無料
一般	1,000円
学生(小〜大)	100円

【講師】NPO法人 小網代野外活動調整会議

【集合】京浜急行 三崎口駅改札前

【コース】三崎口⇒🚌⇒引橋入口〜小網代中央の谷コース〜エノキテラス現地解散(昼食や午後散策できます)※森内解散のため小網代湾、三崎港方面、三崎口駅帰路の案内地図を差し上げます。

◆小網代の森の四季折々の自然環境の移ろいや動植物を観察できる定例トラスト・ガイドを毎月実施します。

申込方法

【申込先】(公財)かながわトラストみどり財団 みどり企画課
〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20
fax 045-412-2300 ✉midori@ktm.or.jp web www.ktm.or.jp

【申込方法】イベント内容をご確認の上、●参加を希望するイベント名 ●参加希望者全員の氏名・住所・電話番号 ●会員の方は会員番号を明記して、FAX・Eメール・ハガキ・財団WEBサイトにてお申し込みください。

【雨天の場合】原則として雨天決行です。集合場所にて講師がコース変更等を判断します。【持ち物と服装】筆記用具、雨具、弁当、水筒、敷物、長袖、長ズボン、歩きやすい靴でご参加ください。【お願い】集合時間になりましたら出発します。遅れないようご注意ください。コース内のバス代は各自負担となります。

県民参加の森林づくり活動

※定員になり次第締切

開催日	内容・活動・集合場所・時間など	定員・締切ほか
2018年 1月 20日(土) 予備日:なし	**竹林整備** 【活動場所】川崎市麻生区 栗木山王山特別緑地 【集合】小田急多摩線 栗平駅南口:8時30分(徒歩で移動) 	受付中 100人 (先着順)

※写真はイメージです

申込方法

【申込先】(公財)かながわトラストみどり財団 みどり森林課
☎045-412-2255 fax 045-412-2300
✉midori@ktm.or.jp web www.ktm.or.jp

【申込方法】活動内容をご確認の上、●参加希望日 ●参加希望者全員の氏名(ふりがな)・住所・電話番号 ●森林整備活動登録番号をお持ちの方は登録番号を明記して、ハガキ・電話・FAX・Eメール・財団WEBサイトにてお申し込みください。

【荒天の場合】予備日のある場合は延期又は中止。
【実施の可否の確認方法】実施日前日の18時以降に、電話(045-412-2255)でご確認ください。録音テープでご案内します。

かながわトラスト緑地・ヤマユリ自生地再生チャレンジ始動

『かなユリ・チャレンジ』

▲ トラスト緑地に咲くヤマユリ

財団事務局に会員の方から一通のお手紙をいただきました。そこには、昨年起きた「津久井やまゆり園」での大変痛ましい事件のこと、ご自身も障害のあるお子様を施設に預けることへの葛藤と不安、そして事件のトピックスとして“ヤマユリ”という文字がニュース記事に出るたびに悲しみつつ、その昔には、どこにでもヤマユリが咲き誇り、人々を楽しませていたことを思い出し、その昔のヤマユリが咲く里山の情景を地元に復活してもらえないかという内容でした。

ヤマユリは神奈川県の県花として県民に愛され、その容姿の美しさが讃えられるほど、里山を彩るシンボル的な存在です。しかし現在、財団で保全する県内のトラスト緑地で調査したところ、数か所で見られるだけでした。

この手紙をきっかけとして財団では、トラスト緑地でヤマユリの自生地を再生する事業を開始します。

この事業では、林床の環境を整える草刈等を実施するほか、緑地でヤマユリの球根や種を採取し、平塚市の社会福祉法人進和学園へ栽培・育成を依頼します。そこで増えた球根を緑地に戻す事業を展開し、自生地を回復させていく予定です。

昔、里山で見られたヤマユリが咲く風景を復活させ、多くの人々の心を癒し、地域の憩いの場所として再生していければと考えています。

ヤマユリは宿根草で数年育成して開花が見られる植物のため、自生地再生は大変時間がかかりますので、持続的に取り組みながら、機関誌ミドリで報告していきます。

▲ 財団西ケ谷専務より進和学園メンバーへ贈呈

▲ 進和学園敷地にて球根を植え付けました

お手紙　※お手紙の内容を一部割愛したものを掲載しました

かながわトラストみどり財団様
　　2016年8月1日

梅雨の明けたような、まだ明けないような　昨今でございます。

私の娘は重度のダウン症で、今年３月より隣町の施設に入所しました。娘は45才で歩くのが早く元気で、主人が亡き今、2人で生活してきましたが、80才の私がついて行けなくなり入所をお願いしました。

娘は言語理解が困難でどう説明したらよいかわからないまま、施設に入所させました。5月の連休で一時帰宅後、施設の前で騒動してしまい、前から知っている同室のお友達の名前「〇〇ちゃんが待っているよ」と言ったら、クルリと後へ向き、私の手を離し、施設へもどってくれました。

そんな有様に私も時々、涙を流していましたが、2016年７月26日の事件以来、ラジオ、テレビ、新聞等見聞きする度、涙が止まりません。

42年ほど前、神奈川県へ越してきて、小さい娘を連れて児童相談書や福祉事務所などで相談を受けるところで「津久井やまゆり園」や、「ヤマユリ」が県の花であることを知りました。

越してきた我が家の隣には、小高い森の崖にヤマユリが咲き、毎年楽しみにしていたのに、今は見つかりません。

近くの神社の斜面地にも３～４本ありましたが、今年は半分になっていました。

私の希望なのですが、このたびの悲劇を悼み、ヤマユリの花を各町で絶滅させないように、保護する場所を作っていただけないでしょうか？

弱い立場の人達も、仲間として受け入れる寛容な心を育てる場所となればと願います。この人達もそれぞれの人の能力で一生懸命いきているのですから。

皆様のご活躍、お祈り申し上げます。

久田緑地の課題

久田緑地は大和市上和田にある境川に沿って形成された河岸段丘に残された緑地であり、周辺には住宅地と畑が広がります。緑地面は7.9ha、南北に約1.2km細長く住宅街に緑の回廊が続きます。

このため住宅地や農地との林縁部の維持管理が必要となります。緑地の樹木は空間を求めて枝葉を伸ばし、落葉による住宅の雨戸井の詰り、建物や車などへ樹液の飛散が問題となります。また、大きく成長したため、風雪によって枝木が折れることや、場合によっては倒木の危険性もあるため、毎年、定期的に樹木の伐採や剪定を行っています。

そこで、出される丸太や枝木の大半は搬出され、廃棄物として処理されてしまいます。それまで何十年と緑地に根を下ろして成長を重ね、さまざまな恩恵を与えてきた樹木の最後が廃棄物扱いでは悲しい結末といえます。

また一方で、久田緑地は公園として管理されることなく、トラスト緑地保全支援事業を展開するなど、多くの会員の皆さまの支援によって保全が行われているため、その支援者の皆さまに情報発信や来訪いただけるきっかけを作りたいと考えていました。

▲境川沿いに続く久田緑地

製材体験イベント　2017 11月26日(日)

今回、東京都世田谷区に拠点をおく(社)街の木ものづくりネットワークと連携し、緑地内で伐採された丸太を使用した「製材体験＆木工ワークショップ」を開催しました。伐採した樹木を廃棄物とせず、イベントで活用することによって参加者の良い思い出として残ることでしょう。

なお久田緑地は、人工林など木材生産を目的とした林地ではなく、搬出される樹種もさまざまであり、決して使いやすいものではありません。そのため、講師を務めた湧口善之氏の協力により製材体験イベントが実現しました。搬出される丸太や枝木で使える部分を選別し、その樹木のクセをみて木材としての新たな価値を生み出していただきました。

写真1：昭和初期の左馬神社境内　写真2：大スギの木挽き　大スギの木挽場所と思われる所で再現

昭和初期の木挽き文化を復元

会場として使用させていただいた大和市上和田にある左馬神社の昭和初期の写真２枚をご紹介します。戦前、拝殿左にあるスギの巨木(写真1)は、遠くは藤沢からも見えたそうですが、あまりにも大きくなりすぎて拝殿に危険がおよぶと判断し、もう一枚の写真(写真2)のとおり伐り倒し、隣村の宮久保から木挽きが来て、製材したと、地元の方から伺いました。その材は高値で売れ、神社に鐘楼を作ることができたそうです。

今回の製材体験ではこの写真を見ながら、昭和初期の地元史も学び、人と木の歴史的環境としてとらえ、境内にて製材を再現できました。

▲丸太は長さ1.4m、直径40cm。
台座に乗せてヨコに挽いていきます

▲切り株も見学。上を見上げれば、
葉を広げていた空間がぽっかり
空いていました

◀
しっかり固定して
縦に挽く方法も
体験しました

ウワミズザクラの花　写真:阿木 二郎(場所:葛葉緑地)

ウワミズザクラは公園や庭先で見かけるサクラとは異なり、白くブラシ状の花をつけるサクラの仲間で、久田緑地でも数か所で見られる山野の樹木です。昔から漆器や工具の柄などにも使用され、淡く赤みがかかり年輪の風合いが好まれる美しい木材として利用されてきたようです。

製材体験では普段見ることがない大鋸(オガ)を使って、子どもも大人も順番に丸太を挽いていきました。最初はうまく歯がかかりませんが、数分もすれば慣れてきて、体全体を使ってリズミカルにオガを動かしていました。途中、講師による樹木や製材についての解説や、スプーンや箸づくりも行われ、それぞれの作業を交互に進め、イベント終了間際に丸太を割る↗ことができました。

この製材体験を通じて、多くの皆さんに久田緑地に関心を持っていただき、緑地保全の理解と支援の輪が広がっていければと考えています。

▲参加者とオガを持つ講師の湧口氏

製材体験に利用したウワミズザクラは株元の腐朽が進み、このままでは住宅地に隣接し、倒木の危険性が出てくるために伐採を決断した樹木でした。街路樹や銘木などは手間暇をかけて、薬剤散布や支柱を施すなど延命させる処置もありますが、緑地保全の観点では伐採や剪定を行い、その緑地の更新を図り自然環境を再生します。

来年のクリスマスプレゼントにおススメ!

久田緑地産材の木工品をプレゼント

伐採などで処分する樹木を来年のクリスマス・プレゼントに生まれ変わらせる～森のかけらプロジェクト～

トラスト緑地の保全にご協力ください

寄附金 1,000円以上

森のかけら『一輪挿し』
約W30×D30×H50㎜/木部＋ガラス管

樹種や部位によって、木目や色味が異なるため同じ作品は生み出されません。小さな木片をかき集め、巧みな技によって唯一の一輪挿しと生まれ変わります。個性ある作品を集めて、久田緑地の森をご自宅に。

財団では身近な都市近郊の緑地を保全しています。その樹木管理として伐採、剪定される木は廃棄物として処理されてしまいます。そこで、(社)街の木ものづくりネットワークと連携し、木材として生まれ変わらせる「森のかけらプロジェクト」を開始します。

寄附いただいた皆さまには、来年の12月中旬を目途に木工返礼品がお手元に届けられる仕組みです。対象となる樹木は、これから伐採、製材、乾燥、加工といった工程を経ていきます。立木から製品に変わる木材利用のながれは機関誌ミドリにて紹介していきます。

寄附金 4,000円以上

森のかけら『額縁』
外寸約W150×D150㎜、内寸約W90×D90厚さ25㎜/木部＋アクリル

その額縁は広く、厚く、飾られる写真や絵を引き立てる以上に個性的な縁柄を主張します。

寄附金 6,000円以上

森のかけら
『カッティングボード』
約W350×D160厚さ18㎜

木目や色合いがはっきり出るため、樹種の個性的な特徴が現れます。
朝食のトーストを置くお皿として、ハムやチーズを盛り付けて食卓に彩りを与えるアイテムとして、店頭に並ぶことのない、個性的な樹木たちを素材そのままに。

※写真はすべてイメージです

寄附金 35,000円以上

森のかけら『スツール』
約W400×D400×H420㎜

街を見守ってきた樹木が椅子に生まれ変わります。
※サイズは目安。詳細は打合せにて

寄附金 3,000円以上

森のかけら
『ミニ・カッティングボード』
約W200×D130㎜厚さ18㎜

小さめのカットボードはフルーツなどのカットに最適です。

寄附による木工品お届けのながれ

①**振込：～2018/2/28迄に** 納付書にある木工品の個数を記載の上、合計金額以上の寄附をお願いします。

▶

②**情報発信：2018/3～11月** 申込期間終了後、伐採、製材、乾燥、加工を行います。その様子は機関誌ミドリやお手紙にてお知らせします。

▶

③**お届け：2018/12中旬頃** 木工品を梱包してお届けします。

※イメージ写真と異なる作品に仕上がる場合があります。サイズは木材の状況により変更の場合があります。予めご承知おきください。

同封の振込用紙の取扱いについて

①本用紙は「キャンペーン用振込用紙」です。会員会費の振込には使用しないでください
②木工品・領収書等礼状の不要、ミドリ等の掲載不要（匿名希望）の方は通信欄に☑をお願いします

（公財）かながわトラストみどり財団への寄附金は、所得税・法人税の控除が受けられます

所得税・住民税の優遇措置について

（公財）かながわトラストみどり財団への会費や寄附は確定申告をすることによって、所得税、住民税の還付を受けることができます。ただし、県民税や市町村民税の控除は各自治体によって異なります。なお、控除額の計算はいずれかを選択することができます。

①税額控除（所得税） ※住民税の控除額が2017/1/1より変更されました

❶所得税の減少分
（年間の公益法人等への寄附金総額－2,000円）×40%

❷住民税の減少分
県民税（年間の公益法人等への寄附金総額－2,000円）×2%※

（❷の例）：横浜市税
（年間の公益法人等への寄附金総額－2,000円）×8%※

②所得控除
（年間の公益法人等への寄附金総額－2,000円）の金額を、その年分の所得から控除するもの。

相続税の非課税
相続された方が相続財産を、相続税の申告期限（亡くなってから10か月）までに寄付された場合は、その寄附額は相続税が非課税となります。

トピックス

かながわの森林・竹林をきれいに

トラスト 竹チッパー稼働中!

『ちくりん号』

財団では竹林管理に有効な竹粉砕機を導入し、貸し出しを開始しました。粉砕機は竹以外に通常の枝木も粉砕可能です。

貸し出し方法について:財団が開催する講習を事前に受け、団体登録を行う必要があります。このほか、運搬用の軽トラックやヘルメット、鎌・鋸等も貸し出しています。詳細については財団ＷＥＢサイトか財団事務局までご連絡ください。

みどり森林課 ☎045-412-2255

かながわのナショナル・トラスト運動をみんなでサポート!

「サポーター会員」イベント写真班を募集中!

イベント写真班に協力ください

現在の登録人数 75名

財団で行われる自然観察会や森林体験イベントに同行いただき、写真撮影の協力をお願いします(参加受付のお手伝いも!)。写真愛好者の皆さまならどんな機材でも大丈夫です。ぜひ、一緒にトラスト運動を盛り上げましょう。

◆写真の版権はサポーターに帰属し、ミドリやWEB掲載時に任意でお名前を掲載します。

【参加条件】財団のトラスト会員に登録している、20歳以上の方

参加方法 「かながわトラストみどり財団サポーター制度」にお申し込みください。登録後、メールや電話などで財団事務局よりサポートの依頼の連絡が入り、エントリーいただく仕組みです。サポートいただいた方には、保険加入及び交通費が支給されます。

※詳しくは財団事務局まで

みどりのトラスト会員の輪を広げよう!

かながわのみどりを守り育てる運動を支えていただく会員を募集しています。県内のまちのみどりから山のみどりまでを保全し、後世に引き継いでいくために、皆さんの力が今こそ必要です。＊入会のお問合せは事務局まで

普通会員

かながわのみどりを守り育てる運動を支える会員です。

会費は緑地保全や地域の緑化のほか、財団の運営に充てられます。

トラスト緑地保全支援会員(オプション)

普通会員の方に任意の加入で特定の緑地(小網代の森緑地・久田緑地・桜ケ丘緑地)を支援していただきます。会費の全額が支援緑地の自然再生や管理作業費用に充てられます。

トラスト会員		普通会員
個人	大人	2,000円
	中・高校生	1,000円
	小学生	500円
家族	1家族	3,000円
法人/団体	1口	10,000円

トラスト緑地保全支援会員 任意加入

トラスト会員 ＋ オプション

支援したいトラスト緑地のいずれかを選択

個人/家族	3,000円	
法人/団体	1口	10,000円

5年分の会費を1回でお払いいただくと6年間会員になれます。

公益財団法人
かながわトラストみどり財団

〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野2-12-20
☎045-412-2525 ✉midori@ktm.or.jp web http://www.ktm.or.jp

ミドリ(midori) No.107 冬号 2017
編集・発行:(公財)かながわトラストみどり財団
編集協力:渡部 尚久
デザイン:(株)アド・カジエンス　印刷:朝日オフセット印刷(株)

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

02	横浜

払込取扱票

通常払込料金
加入者負担

口座記号番号	金額	千	百	十	万	千	百	十	円
0 0 2 8 0 = 2 = 4 2 2 2 4	※								

加入者名	公益財団法人かながわトラストみどり財団	料金		備考	

ご依頼人・通信欄

※おところ 〒□□□－□□□□

おなまえ

会員番号（　　）

（ご連絡先電話番号　　－　　－　　）

［※会費振込はご遠慮ください。］
トラスト緑地保全のための寄附

- □ 一輪挿し（　　個）1個：1,000円以上
- □ 額縁（　　枚）1個：4,000円以上
- □ カッティングボード（　　枚）1個：6,000円以上
- □ （ミニ）カッティングボード（　　枚）1個：3,000円以上
- □ スツール（　　脚）1脚：35,000円以上

媒体：ミドリ 107 号

※不要な方は☑（チェック）をお願いします。
□木工品不要 □領収書等不要 □機関誌ミドリ等への名前の掲載不要（匿名希望）

日附印

裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号横5996号）

これより下部には何も記入しないでください。

切り取らないでお出しください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0 0 2 8 0 = 2	通常払込料金加入者負担
	4 2 2 2 4	
加入者名	公益財団法人 かながわトラストみどり財団	
金額	千 ※ 百 十 万 千 百 十 円	
ご依頼人	※おなまえ 様	
料金		日附印
備考		

この受領証は、大切に保管してください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

振込には手数料はかかりません。
ゆうちょ銀行・郵便局の窓口でお振込ください。

（ご注意）
・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

この受領書により募金の領収書に代えさせていただきます。
（公財）かながわトラストみどり財団
電話 045-412-2525

収入印紙

課税相当額以上
貼　付

印

この場所には、何も記載しないでください。